

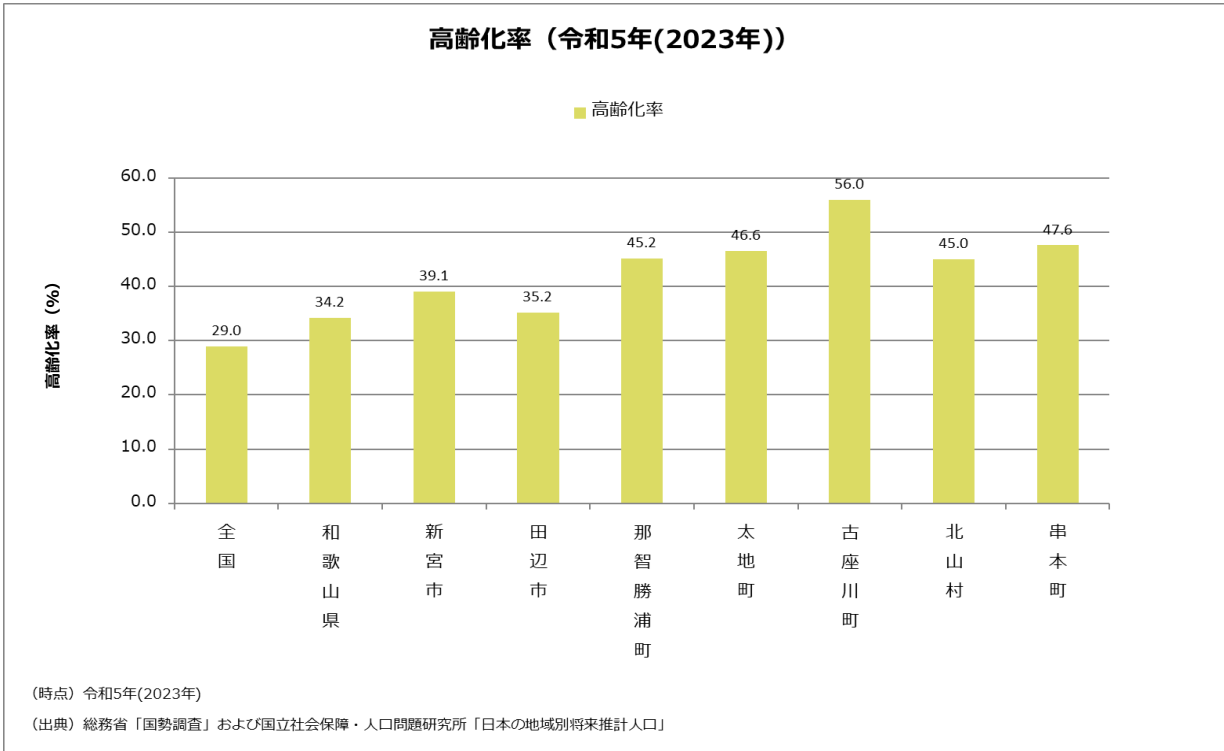
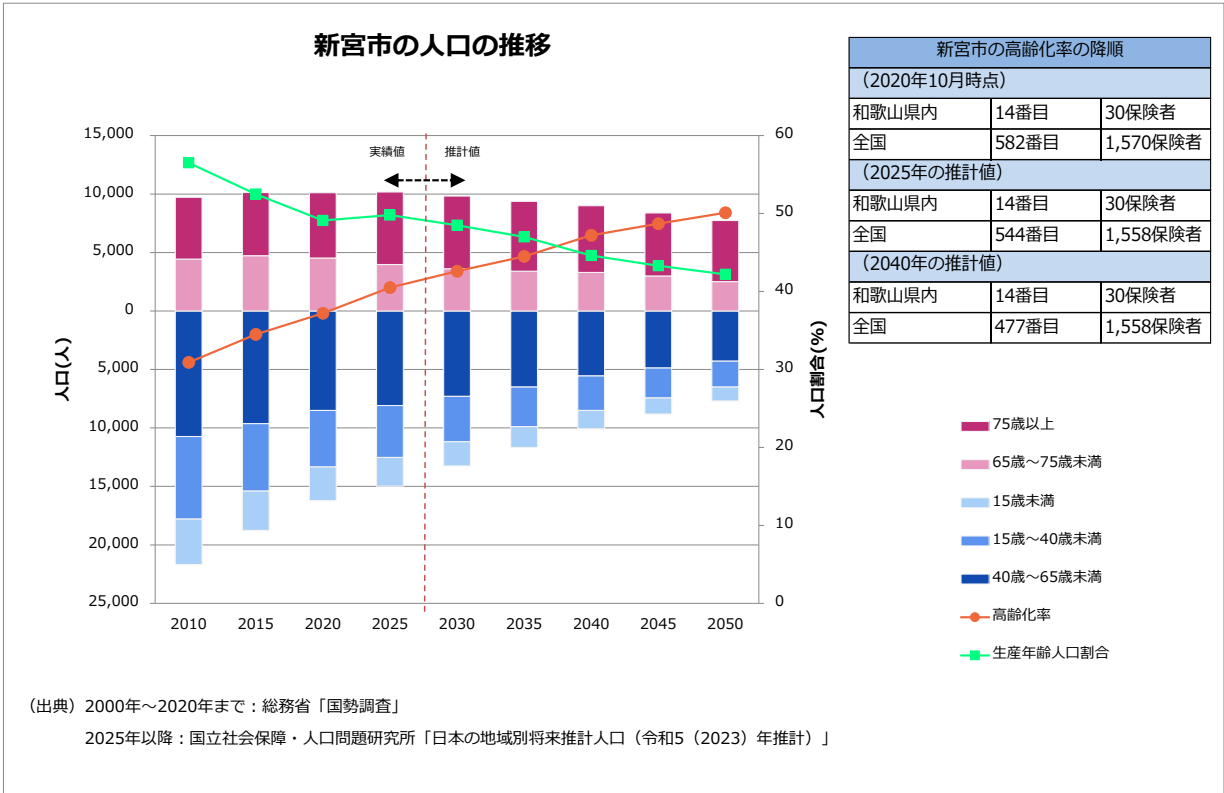
地域包括ケア「見える化」システムを活用した新宮市介護保険事業の分析

1. 人口・高齢化率の推移

新宮市の人口は、2030年に23,065人、2040年に19,074人になると推計されています。

65歳以上の人口は既に減少傾向にあり、75歳以上の人口は2030年まで増加しその後は減少に転じる見込みですが、生産年齢人口が減少していくことから高齢化率は、今後も上昇し続けると推計されます。

令和5年の新宮市の高齢化率は39.1%で、全国、和歌山県と比較し高い値となっています。また、新宮・東牟婁地域は県内でも後期高齢者の割合が高く、高齢化率も他地域より高くなっています。

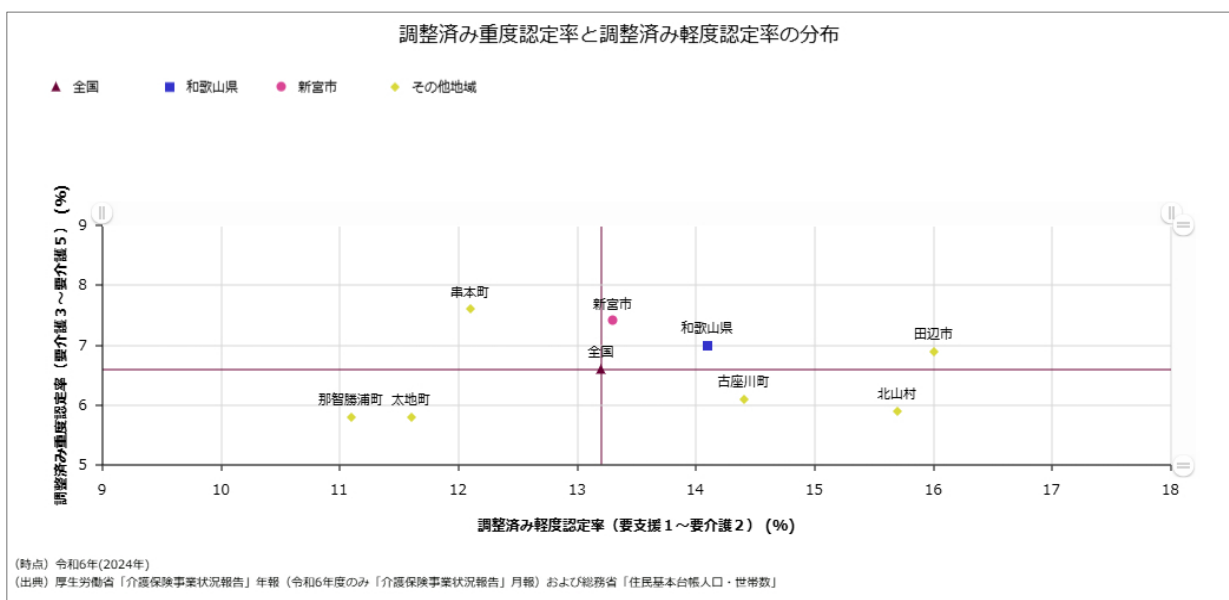
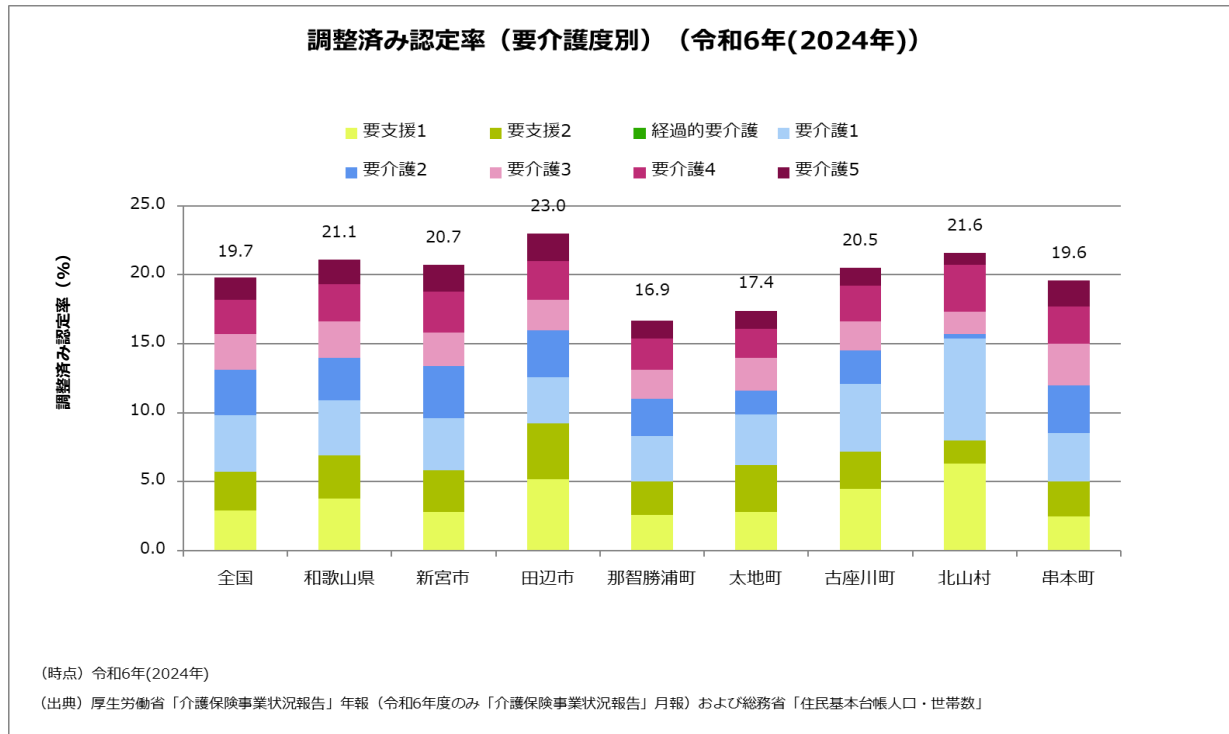


2. 認定率

新宮市の令和6年の認定率は、22.8%で全国、和歌山県と比較して高くなっていますが、調整済み認定率は20.7%で全国より高く和歌山県よりは若干低くなっています。また、調整済み軽度認定率は全国平均に近く、調整済み重度認定率は、全国、和歌山県と比べやや高い傾向にあります。

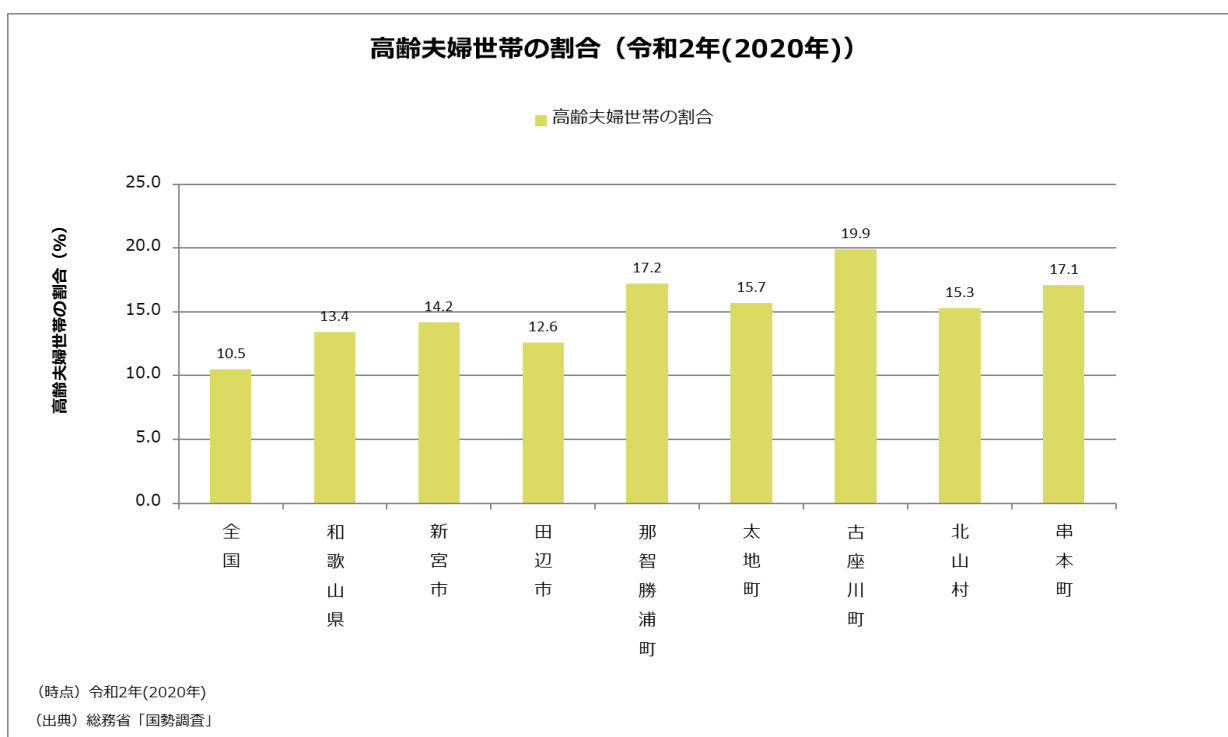
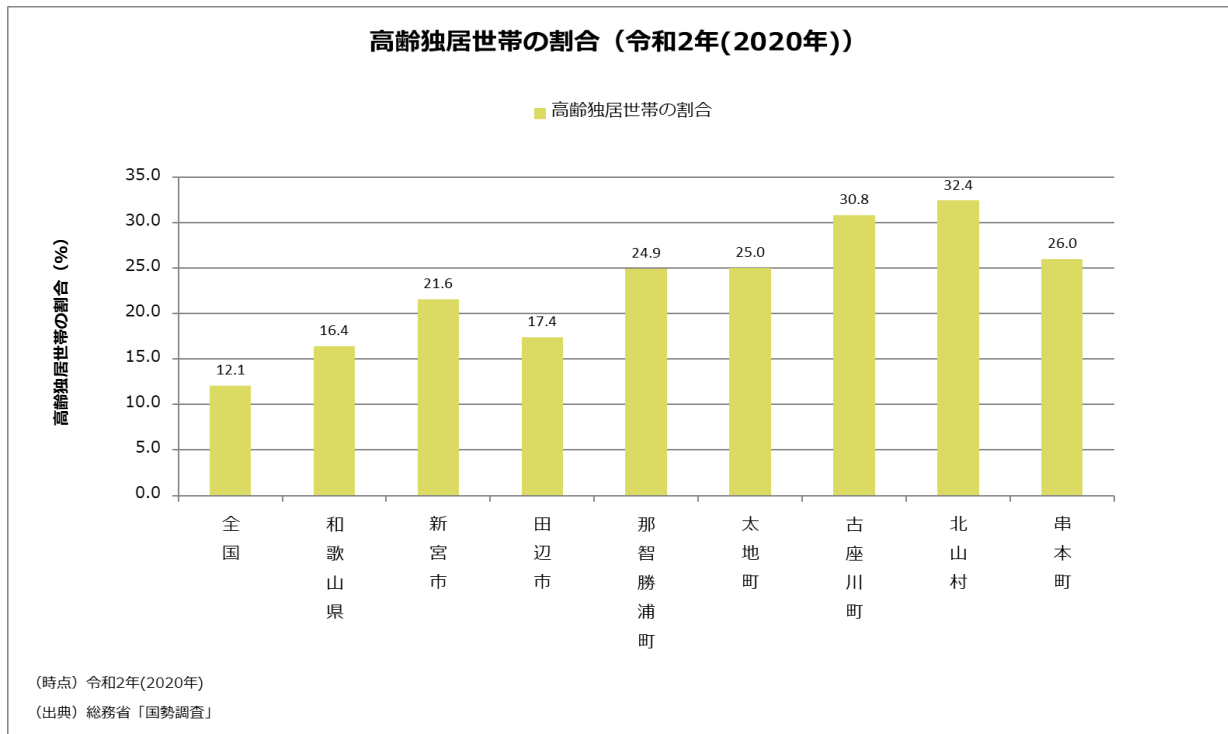
※「調整済み認定率」とは

認定率の多寡に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢構成」の影響を除外した認定率



3. 高齢独居・高齢夫婦世帯の割合

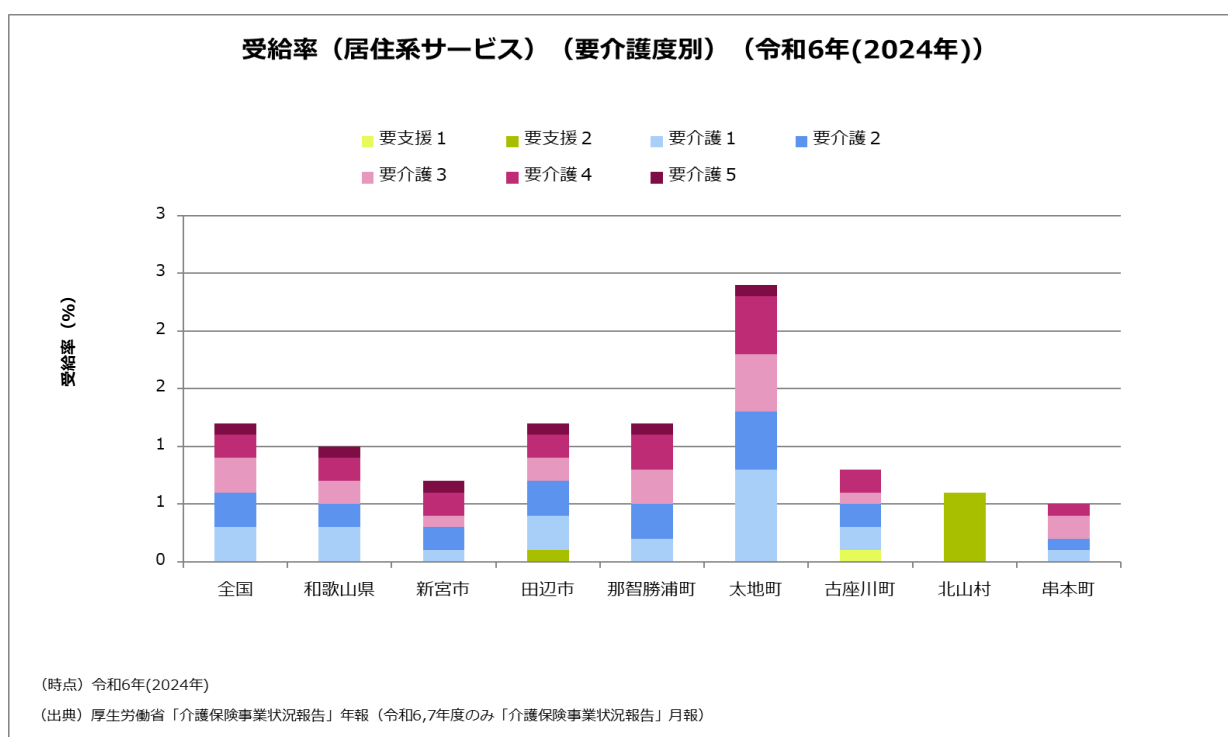
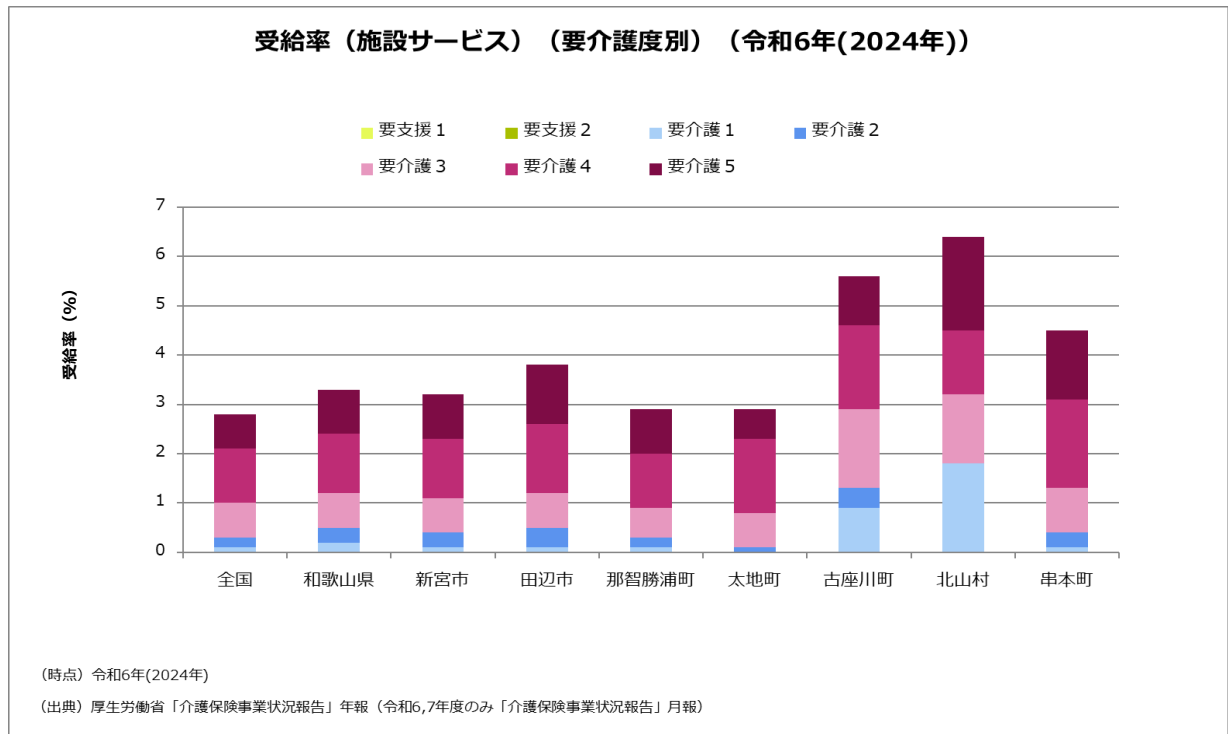
新宮市の令和2年の高齢独居世帯の割合は21.6%で全国、和歌山県より高く、県下9市で最も高い値となっています。高齢夫婦世帯の割合は14.2%で同様に全国、和歌山県より高くなっていますが、高齢独居・高齢夫婦世帯の割合は、県内でも過疎化が進んでいる新宮・東牟婁地域全域で高い傾向にあります。高齢独居・高齢夫婦世帯の割合が高いという現状は、身近に頼れる人のいない不安から早期に支援を求めやすく認定率が高くなる一因でもあったと考えられます。



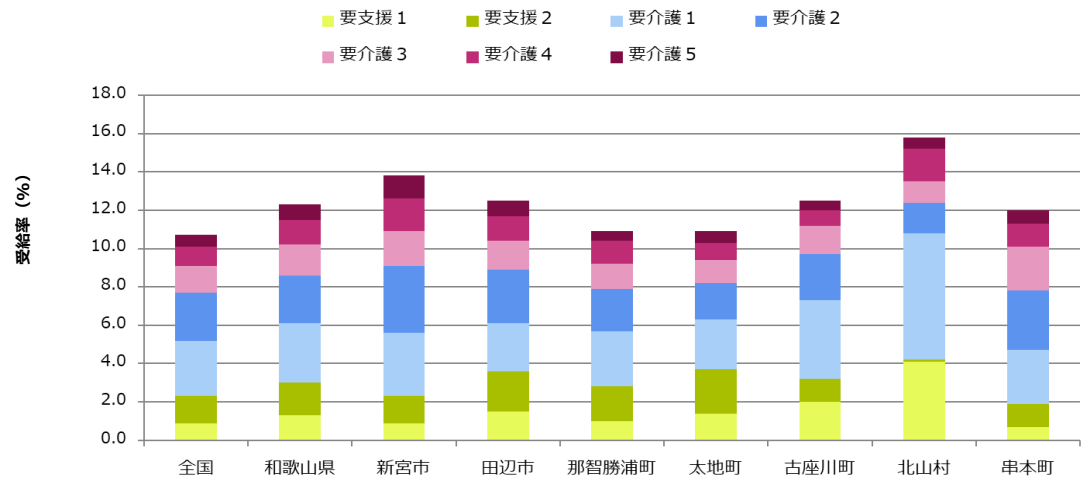
4. 受給率

新宮市のサービス系列別の受給率は施設サービスでは、全国より高く和歌山県より低くなっています。居住系サービスの受給率は、全国、和歌山県、近隣市町より低く、在宅サービスは、全国、和歌山県、近隣市町と比べ高いという特徴があります。

居住系サービスの受給率が低い要因としては、本人非課税の被保険者が多いため負担軽減のある施設にしか入所できないこと、施設よりも在宅を希望する受給者・家族が多い等の理由が考えられます。また、それにより相対的に在宅サービスの利用が多くなっています。



受給率（在宅サービス）（要介護度別）（令和6年(2024年)）

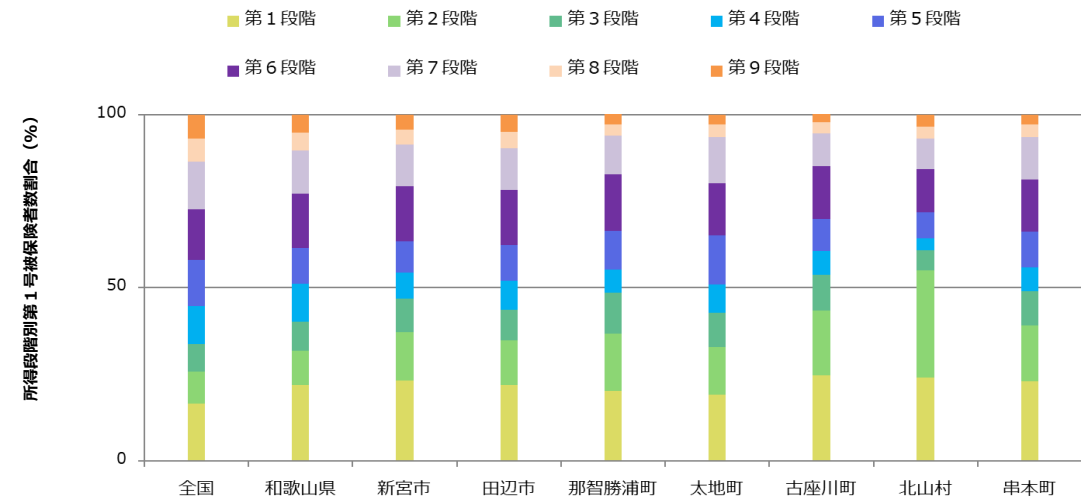


（時点）令和6年(2024年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和6,7年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

新宮市の所得段階が第1段階から第3段階の第1号被保険者数の割合は、全国、和歌山県より高く、県下9市で最も高い値となっています。新宮・東牟婁地域は、県内でも後期高齢者の割合が高く本人非課税の被保険者が多いと考えられます。

所得段階別第1号被保険者数割合（令和5年(2023年)）



（時点）令和5年(2023年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報

5. 介護費用額の推移

新宮市の介護費用額は近年、緩やかに増加していましたが減少に転じつつあります。一方、第1号被保険者1人1月当たりの費用額は上昇を続けています。被保険者数が年々減少していることが要因と考えられます。

調整済み第1号被保険者1人当たりの給付月額、施設・居住系サービスでは、全国、和歌山県より低く、在宅サービスでは高くなっています。

